



鎌倉の出版社

港の人

ご注文は JRC へ

FAX 03-3294-2177

歌集

にんぎょりんごまなべ

人魚と林檎 眞鍋せいら

栞「この世界をまっすぐ見つめる」大前栗生（小説家・歌人）

ISBN978-4-89629-470-5 C0092

「ながい一駅分に渚を」笠木 拓（歌人）

46 判変型並製本／本文 184 頁／定価：2420 円税込

たくさんさんの不如意が織り込まれた歌集だ。愛しい人との距離、関係を名指すもどかしさ、理不尽に侵され奪われる命への心寄せ。なにより、それらをうたうための言葉が、どうやっても十全でないという不如意こそが、眞鍋さんの歌の芯にはある。……この歌人は遠くやさしく「あなた」に呼びかける。

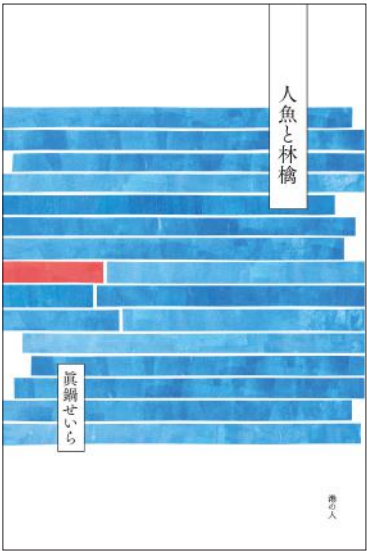
笠木拓（歌人、栞文より）

灯台へ 灯台へゆく 着いたなら悲しみも追ってくると知りつつ
海ならば韻文月の満ち欠けと一緒にずっと満ちては引いて

大前栗生（小説家・歌人、栞文より）

『人魚と林檎』を一読して感じたのは、死が隣にある／あったひとの歌だろうな、ということだ。思いを飛ばそうとするのだけれど、その声は鎮魂のように静けさに向かう。そしてその静けさは歌の主体にも沈む。

すでもう人魚のいない海に来て人魚のための林檎を放る
習わねば泳げもしない生き物に成り果ててからの何億の夜



装丁：飯塚文子

新鋭歌人・眞鍋せいらの第一歌集『人魚と林檎』。
心の病からの回復の道のり、クワロマンティックな感情、遠くパレスチナの人びとや能登地震の被災者に心寄せるなど〈魂のいたみ〉に深く根差した、多様なテーマを詠む。

眞鍋せいら（まなべせいら）。

1996 年東京生まれ。2019 年より作歌を始める。

連作「陸の潮騒」で第 66 回短歌研究新人賞佳作。

*すべての取次からご注文は可能です（JRC 経由）。返品条件付き注文扱い

番線印	ご注文数	歌集 人魚と林檎 眞鍋せいら 大前栗生、笠木拓による栞付 ISBN978-4-89629-470-5 定価 2420 円税込
ご担当：	様 冊	